

令和7年度 県立水戸工業高等学校自己評価表

目指す学校像	◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、キャリア教育・職業教育及び教科学習を充実させる。 (2) 生涯学習の意義を明確に伝え、知・徳・体のバランスのとれた力を養う。 (3) 道徳教育を重視し、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	【工業化学科】 化学を基礎から学び、製造・研究開発・分析業務にあたる技術者を目指す意志のある生徒 【機械科】 基礎知識や専門技術を身に付け、あらゆる分野に柔軟に対応できる視野の広い機械技術者を目指す意志のある生徒 【電気科】 電気をつくる、届ける、利用するまでの基本となる知識と技術を幅広く学び、将来、社会で活躍できる電気技術者を目指す意志のある生徒 【情報技術科】 プログラミングやネットワーク、マイコンを用いた制御および電気に関する学習を行い総合的なITエンジニアを目指す意志のある生徒 【土木科】 土や水の力学的性質を知り、構造体をつくることを学び、最新の設備・機器を導入して、人々の生活に必要な施設(社会基盤、インフラ)を整備する視野の広い技術者を目指す意志のある生徒 【建築科】 建造物を築き上げるために必要な知識や技術を学び、2級建築施工管理士補や2級建築士に合格できる知識や技能の習得を目指す意志のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> 就職内定率 100%(172/172) 進学者合格率 99%(138/139) (令和7年3月31日現在) ジュニアマイスター認証47名 (ゴールド34名、シルバー9名、ブロンズ4名で、このうち10名が特別表彰) <課題> 国公立大学合格者及び国立高専編入合格の合計が昨年度に続いて10名を超えた。各大学の学部の再編等の情報収集を行いながら、進学指導に役立つ体制づくりが必要である。また、総合型選抜への対応として、「総合的な探究の時間(1年)」をブラッシュアップし、「課題研究(3年)」へと繋げていくことで『情報収集』『整理・分析』『まとめ・表現(プレゼンテーション)』の能力を高めていくなど、具体的な指導を確立していくことが課題である。	確かな学力の向上	(1) ICT機器を活用した主体的、対話的で深い学びができる質の高い授業づくりの推進 (2) 専門性向上と資格取得や検定合格を目指した支援の充実 (3) 生徒による授業評価(授業満足度)平均3.5(昨年度3.4)以上の実現	A
	豊かな心の育成	(1) 水工生としての自覚と責任感を身に付けさせる生活指導の充実 (2) 豊かな人間性と社会性を身に付ける特別活動の充実 (3) 一人一人に寄り添う教育相談の体制と生徒支援の充実	A
	進路指導の充実	(1) 自己実現に向けた進路行事の確保 (2) 一人一人の個性に寄り添った個別の進路指導・支援の充実 (3) キャリア・パスポートの活用の促進	A
	地域に信頼される学校づくり	(1) 地域に信頼される学校を目指す広報活動の充実と学校公開の推進 (2) 地域社会・保護者と連携した一体感のある学校づくりの推進 (3) 情報発信の核となる学校ホームページ構成の適切な見直し	A
	教職員の働き方改革	(1) 長時間労働の解消に向けた教職員在校等時間の詳細な把握・分析 (2) 校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 (3) 教職員の勤務時間の適正化の推進	A

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上	毎時の授業での学びを大切に、その力を定着させるために、漢字テストや単元確認プリント等で学習内容を確認する。	①	A	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト、漢文小テスト、プリント学習も取り入れて計画的に実施。提出物に関しても少しずつ改善された。いつも同じ生徒になっっているので個人的に対応した。 ポスターセッションを行い相互評価したり「朝日けんさくくん」等も使用したりして「探究」への姿勢を意識して指導した。
			期限内提出や配付物の自己管理を促し、定期的にノートや課題を確認する。また、授業や定期考査の結果をもとに生徒個人の苦手とする分野を把握し、指導する。	②	A	
		主体的、対話的な学びの授業	他人の意見を真剣に聞く姿勢を養い、それをふまえて、自分の考えを述べる対話的な授業を目指す。	①	B	
			ICTを効果的に授業で活用し、生徒が主体的に活動できる、分かりやすい授業の展開を目指す。	②	B	
		進路実現へのサポート	表現領域での活動、話す、書く、聞く等の力を意識して指導し、コミュニケーション能力の育成を目指す。更に、新聞等を活用し、広く社会に目を向け、情報の真偽を見極める力を付けさせる。	③	A	
			担任や工業科と連携し、それぞれの進路、科で求める生徒像(国語力)を明確にし、3年間を見据えた深い学び、探究を支える。	③	A	
教科	地歴・公民	基礎学力の向上を図る	毎時の授業において学習課題を与えて、課題解決を図らせる。また、それらの課題を2回以上提出させ、チェック・アドバイス・評価を行う。	①	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定のサポートになるような授業に関連した授業の立案を検討する。 探究型学習のテーマや実施方法、時期を見直す。
			社会的事象への興味・関心を高める、授業満足度	Chromebook・電子黒板等を活用して「わかりやすい授業」を実践し、生徒の興味・関心を高めることを通して、生徒の授業満足度向上に努める。	①②	
		主体的で、対話的で、深い学びの授業実践	平和で民主的な社会を形成するために必要な多角的・多面的な思考力を育成し、日本人としての生き方を考えさせる。	①②	B	
			探究型学習の時間を設け、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成する。	①②	B	
教科	数学	基礎基本の定着	基礎基本の定着のため、必要に応じて小テストや復習プリントを行う。また、スタディサプリを有効に活用し、課題や確認テストを実施する。分かる授業を実践することで授業満足度の向上を図る。	②	B	<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリの効果をより高めるための、配信計画の充実。 ICT活用を教員間で共有する機会の創出。 進学へのサポートをより一層充実させるための他部・他科との横のつながりの強化。
			定期考査ごとに成績不振者(学年の8%以内を目標とする)に追試験や補講を行い、復習をさせる。	②	B	
		指導内容の充実	Chromebook・電子黒板等を活用して視覚的に「わかりやすい授業」を実践する	①	B	
			ICT等を活用した授業実践に向け、教員間で情報交換を行い、スキルアップを図る。	①	B	
		進学へのサポート	進学課外では、国公立大や茨城高専の入試出題傾向を分析し、合格に向けての指導をする。	①	B	
			大学等の合格者に対して、大学での授業に対応できるように課外授業を行う。	①	B	
教科	理科	基礎学力の向上・授業満足度の向上	必要に応じて生徒実験や演示実験を行い(年5回程度目標)、またICTを活用し、主体的で、対話的で、深い学びができる授業を展開することで、生徒の授業満足度の向上につなげる。	①	B	<ul style="list-style-type: none"> 対面での演示実験と、ICTによる動画教材の活用のバランスを取り、学習の場面に応じて最適な方を選択すること。 本校の特徴を生かした、工学と理科の結びつきを生かした授業教材の設計。
			ノートやレポート等を期限内に提出するように指導する。	①	A	
		科学技術と社会問題の関連等の認知及び応用力の育成	先端技術と環境の問題等を取り上げて、将来の職業をきちんと考えるきっかけを与える。	①	B	
			進学を希望する生徒に対して進学課外を実施し、進路実現に向けて応用力を養う。	①	A	
		授業態度の育成	授業を通して基本的マナーを指導する。	②	A	
			レポートや課題を課して、学習に取り組む姿勢を養う。	②	A	

教科	保健体育	進路実現に向けた思考・判断・表現力の向上	ICTを有効に活用し、学習した内容を踏まえ、自分の意見をまとめ他者に伝える力を育む。	①	B	A	教科内で検討を重ねICTの活用を向上させ、授業効率を上げる事が出来た。生徒同士においても見える教え合いを通して、互いに教えあい、気づき合う環境の整備を目指す。
			PDCAサイクルを意識した指導や添削によって「できるようになる」授業を行い、自ら学ぼうとする態度を育て、互いに教えあい、気づき合う態度を身に付けられるよう配慮する。		A		
ものづくり教育の原点を踏まえた態度の育成	安全教育・規範意識を大切にしている指導を行う。（保健「交通安全」「労働災害と健康」や体育「集団行動」「水泳」など）	②	A				
	教え合う時間を確保し、多様性（男女、得意不得意、障害や持病など）を受け入れ、協力する態度を育成する。		A				
教科	美術	美術を愛好し、美しいものに素直に心から感動できる感性を養う	授業で制作した作品の展示、鑑賞活動やプレゼンテーション活動をを校内・校外で年1回以上実施する。	①	A	A	・評価基準についてより明確化する。
		工業の学習内容と関連させながら教科横断的な課題に取り組みせる	工業の学習内容と美術を関連させながら、基本的な技術と領域を幅広く学習させる。	①	A		・授業教材について、よりわかりやすい内容になるように更新する。
		指導方法の改善充実を図る	ICTを活用してわかりやすい課題提示とアンケート機能を活用して生徒の意見を反映させた授業への改善を図る。	①	A		・教科横断的な取り組みの推進していく。
教科	英語	基礎学力の定着	英単語の小テストを各学年、年間8回実施し、語彙力の定着を図る。3年間で英単語帳1冊分3,000語を学習することになる。	①	A	A	・昨年度B評価であった『成績不振者への定着支援』について、今年度は各学年および教科担当が足並みを揃え、定期考査前の補習や放課後課外を組織的に実施した。
			授業を大切にし真摯な態度で取り組ませるほか、ノートテイクや音読、ディクテーションなどの諸活動への積極的な参加を促す。	②	A		
			成績不振者に対しては、定期考査前等に補習を行うことで既習事項の定着を図る。	①	A		
		基礎学力の向上	英検級別の課外を実施し、目標をもって学習することで、学力向上を図る。	①	B		
	1・2年生にはスタディサプリを活用し、3年生の希望者には、入学・入社試験に対応できる学力をつけるため、個々の進路にあった内容で補習を実施し、進路の実現を目指す。	①	A	・ALTとのTTにおいて、生徒が抱く「楽しさ」や「達成感」を、具体的な学習成果の評価へと結びつけることが課題である。			
	授業満足度の向上	ICTの活用、ALTとのTTを通じて、生徒がより活動的で、達成感を味わえる授業を実践する。	①	A			
教科	家庭	事故防止と安全指導に努める	実験・実習における事故防止のため管理徹底、施設等の衛生管理の強化を図る。	②	A	B	・新しく導入した実習室のモニターを有効活用できるように、授業の展開を研究していく。
		指導方法の改善充実を図る	興味・関心を持たせるため、教材の精選や指導方法の改善に努める。 効果的にICTを活用し、理解度の向上や多種多様な生徒も考慮した授業を展開する。	②	B		
工業科	工業化学科	基本的な生活習慣の確立	規範意識を持たせ、良好な人間関係を築き、落ち着いた学校生活を送らせる。	①	B	B	・規範意識を高める指導の継続 ・化学へ興味関心を持たせる授業の工夫改善 ・課題研究や実習の成績評価方法の変更、公平化 ・設備更新が難しいことから、実習内容の変更 ・実習機器の使用・管理についてのルール作成
			適切な言葉使いやマナーを身につけさせ、ルールを守らせる指導を行う。	②	B		
		学習意欲の向上と基礎基本の充実 資格取得の推進	興味関心と学習意欲を持たせる授業を行う。日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度を育み、学力向上を目指す。	②	B		
			実習では基本的実験操作の習得とともに、常に思考・判断させ考察を深めさせる。また、徹底した安全教育を行う。	②	A		
			資格取得のための指導を課外授業で行う。	②	A		
進路への意識を高め進学・就職全員合格を目指す	授業等を通して進路に関する情報を提供し、進路への意識を高める。	③	A				
	面接指導を計画的に実施し、希望する進路に決定できるように指導する。	③	A				

工業科	機械科	機械科にふさわしい進路指導の実現を目指す	授業規律を確立・維持し、授業をしっかり受けさせる。	①	B	B ・老朽化した実習設備の更新や修理を進める。 ・長寿命化工事期間中の授業展開について検討する。 ・目標とする資格検定試験を精選し、計画的に指導する。 ・実習内容を検討し、作成した資料を共有する。 ・実習や課題研究の取り組み方や評価について検討する。 ・授業をしっかり受けさせる指導を行う。
			大学の入試傾向を把握し、課外を計画実施する。	②	B	
			進学や就職に対応した面接指導を行う。	③	A	
		資格取得を奨励し、生徒の技術向上と向学心の育成を図る	機械科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。	②	A	
		年度当初に、機械科として目標とする資格試験や試験日程等を紹介し、生徒に目標と向上心を持たせる。	②	B		
高校生としてのマナーを身に付けさせる	管理室への出入りや教職員への言葉遣いなどのマナーを指導する。	②	A			
		頭髪や服装の乱れを指導する。	②	B		
本校の今後の方向性を検討する	今後の本校の在り方や機械科の実習等について話し合い、検討する	①	A			
		機械科のカリキュラムについて検討する。	①	B		
工業科	電気科	基本的な生活習慣の充実	実習始めの集合時間(5分前行動)を厳守する。遅刻・欠席をなくす。	①	B	A ・実習室の整備、実習内容の検討、実習評価の検討等をすすめる。 ・国家資格の合格率アップをはかる。
			適切な言葉使いやマナーを身につけさせる。	①	A	
		基礎学力の向上 資格取得の推進	電気電子の基礎学力をしっかり身につけさせるために、ICTを活用し分かりやすい授業を目指す。また、Googleフォーム等を活用し小テストを随時おこない理解度を確認し、基礎学力の向上を目指す。	①	A	
		安全教育の徹底	実習開始時の整列指導において注意喚起をおこない安全意識の向上を図る。 実習終了時の整理整頓を徹底させ事故の防止を図る。	②	A	
		自己実現に向けた進路指導	将来の目標を設定させ、より適切な進路選択が出来るよう指導する。 進学・就職希望者に対応したきめ細かな指導を行う。	①	A	
工業科	情報技術科	基礎的な生活習慣の確立	高校生としてのマナーを身につけさせる。	②	A	A ・国家資格の合格率が向上しているため、次年度も継続して向上させていきたい。 ・応用情報など高度な資格にも挑戦させていきたい。
			日常生活や学習活動をととして個別に生活指導を行う。	②	A	
		学力の向上 資格取得の推進	基礎的な学力を身につけさせ、社会人としてふさわしい生徒に育てる。 ICTを活用した主体的・対話的な学びを通して、資格取得者数の向上を目指す。	①②	A	
		進路指導の充実	生徒が目標とする進路の実現に向け、個別に対応する。 面接指導・学力指導を早い時期から行い、実践的な能力を身につけさせる。	①	A	
		広報活動の充実	ホームページやイベント等で生徒の活動を小・中学校や地域社会に広報する。 進学先や就職先に対して、積極的な広報活動を行う。	①②③	A	
工業科	土木科	教育課程の特色を明確にする	ICTを含む新しい知識・技術の導入を図る。	①	A	A ・建設系の資格取得をさらにすすめる。 ・実習設備の老朽化の対応と実習内容の検討を進める。
			生徒が興味を持って学習に取り組めるような授業展開を図る。	①	A	
		実験・実習の重視	周到な準備を心がけ結果が想定以外の場合には、その原因を追究し究明させる。施設設備の充実や指導者の養成に努める。安全教育を徹底し事故防止に努める。	①②	A	
		生徒の職業指導	生徒の適切な進路選択、適応のため組織的継続的な職業指導を行う	①	A	
建設系技能資格取得	土木施工管理技士補をはじめとする建設工事における資格取得を目指す。	①	A			
工業科	建築科	基本的な生活習慣や道徳心を高める。	挨拶の習慣や高校生としての言葉遣いを身につけさせる。授業を受ける真摯な姿勢と心構えを養う。	②	A	A ・実習室の設備の老朽化の対応を行えるようにする。 ・建設業への興味関心を更に増やす。 ・課題研究の取り組み方を検討する。
			学校生活を通して、望ましい人間関係を構築する能力を育成する。自立心の育成、心身の調和のとれた生活を確立する。	②	A	
		基礎学力の定着を図り、製図、実習、課題研究などの体験学習を充実し建築技術の向上を図る。	基礎学力の定着をはかるため、定期テスト・小テスト・実習課題のほかに課外を随時実施する。資格取得の指導を積極的に実施する。 自主設計・模型製作・木材加工・測量実習などを通じて、建築技術の習得・ものづくりの心を磨く。より専門的な技術を身につけるために出前授業などを実施する。	①	A	
		進路指導の充実を図る。	早期より進路意識を高めさせ、面接指導などの充実を図る。外部講師による進路ガイダンスなど地域社会と連携し進路指導を行う。 学年や進路指導部との連携をはかり、就職・進学内容の質的向上をはかる。	①	A	
				①	B	

校務分掌	教務部	各学科、教科、校務分掌間の情報の共有化と円滑な連携を図る。	①	A	A	今後の少子化に向けた志願者数の確保、更なる学校情報の発信。
		校内の円滑な情報交換と連携 学校行事の調整による円滑な実施と十分な授業時間の確保を図る。	①	A		
		情報システム部と連携を密にして校務支援システムにより成績処理等が円滑に移行されるように最善を尽くす。	①	A		
		積極的な学校情報の発信 「学校説明会」「学校公開」「進学フェア」「中学校訪問」や地域のイベントなどの機会を積極的に活用して、中学生・保護者・中学校の先生方に本校の特色や魅力を理解してもらう。	③	A		
		学校案内や入学案内等の資料を積極的に活用し、外部へのアピールを図る。	③	A		
校務分掌	生活指導部	新教育課程に向けて研究・検討を始めより良い教育課程の完成を目指す。	①	A	B	いじめや問題行動等の未然防止、早期対応。 交通ルール・交通マナーの遵守。
		教育活動の活性化 欠席、遅刻、早退等の生徒情報を全員で共有し、指導の工夫を図る。	②	B		
		学習環境の整備 積極的に授業に取り組む姿勢と自ら学ぶ態度を身につけさせる。	①	A		
		備品、環境整備等の充実を図り、全職員が健康的に働きやすい環境作りに努める。	②	A		
校務分掌	進路指導	家庭と協力して基本的な生活習慣の確立に努める あいさつ運動を年間4回、登校指導を年間5回実施し意識の高揚をはかる。	①②	B	A	キャリア教育では、より一層の社会的・職業的自立を促す。各進路指導においては、生徒や保護者が必要とする進路情報を正確かつ迅速に提供する。
		盗難のない安全な環境整備に努める 自転車の鍵や教室・個人ロッカーなどの施錠の徹底を図る。 立番や巡回を行い、校内の状況把握や問題行動の未然防止を図る。	②	B		
		身なりを整える 定期的に頭髪服装検査を行う。全職員で共通理解のもと、指導にあたる。	①②	B		
		交通安全教育に努め事故防止を図る 家庭と連携しながら、指導にあたる。 自転車の安全点検を年間2回、スプッター点検を年間2回行い、自転車の安全運転の徹底を図る。 立哨指導を定期的に行い、交通事故の防止を図る。生徒の年間交通事故件数の減少を目指す。	②	B		
校務分掌	特別活動部	各学年と協力して進路ガイダンスや道徳の授業をとおしてキャリア発達を促す。 基礎学力の充実や社会人基礎力の育成に努める。	①	A	A	生徒会・部活動の活性化を推進することができた。
		就職指導の充実 企業訪問等をとおして求人開拓に努める。 企業情報等の提供をとおして、学力の向上や資格取得への動機付けを行う。	①	A		
		進学指導の充実 大学・高専を目指す生徒への確かな情報の提供と、学校選択に関するアドバイスをを行う。 指定校枠の獲得等のため積極的に大学・専門学校訪問を行う。	①	B		
校務分掌	厚生部	委員会活動や生徒会活動を通し、生徒の生徒会活動（本部・各種常任委員会）への参加及び意識を高める。	②	A	B	修繕等含めて校舎内外の美化に今後とも努めていきたい。また、奨学金の知らせを周知していけるよう、関係部署等との連携を深めるようにする。
		部活動の充実 顧問会議・生徒中央委員会などを通して、部活動を運営する上で生じてくる問題点を把握し、充実した活動ができるよう支援する。 各部の部長を中心に部室や活動場所の整理整頓を促す。（長期休業前など） 年度当初の新入生への部活動紹介・部活動説明会を工夫し、部活動の加入率の向上を図る。	②	B		
		生徒の心身の健康を図る 様々な悩みを抱える生徒に対し、相談活動に努める。心身両面に渡るサポートをする。 特別支援教育委員会と協力して、必要とする生徒が適切な支援を受けられるようにする。	②	B		
校務分掌	学習指導部	校舎内外の清掃の徹底を図り、快適な学校生活を送れるよう環境を整える。	②	B	A	・スタッフ・プログラムの効果をより高めるための、配信計画の充実。 ・ICT活用を教員間で共有する機会の創出。 ・進学へのサポートをより一層充実させるための他部・他科との横のつながりの強化。
		学習および生活環境の整備を図る 在校生および進学予定者に奨学金制度の周知徹底を図り、生徒の進路実現において、経済面で支障が生じないように助言や指導をしながら、支援をする。	①	A		
		基礎的な学力の定着と、学習意欲の向上を図る 年2回到達度テストを行い、各テスト後にスタディサプリにおいて、各個人の苦手箇所を中心とした課題の配信を行う。 資格試験の受験日程などの情報を提供し、資格取得の推進をする。	②	A		
		学力の向上を図り、進路指導と結びつける スタディサプリでの宿題配信を、各教科（国、数、英）及び各担任の協力を得て実施する。 大学等への進学の手助けをする。 外部講師による進学補習課外を計画・実施する。また、実力診断テストなどの外部模試を学年と連携して計画・実施する。	①	A		
校務分掌	学習指導部	担任との連携を密にし、情報共有と学習指導の改善を図る 学習意識調査を生徒に実施する。クラス毎の結果も提供し、担任に面談などで活用してもらう。また、資格試験の取得状況の調査結果などの提供方法について改善を図る。	①	B	A	
			①	B		

校務分掌	図書視聴覚部	主体的、対話的で深い学びー探究活動を支える機関としての更なる充実	読書センターとして読書活動を支え、情報リテラシーやコミュニケーション能力の育成を目指すとともにサードプレイス（心の居場所）となる。公共の場のマナーを学ぶ場とする。そして、生徒ひとりあたり、年間貸出冊数を2冊、年間図書館利用数を3回以上を目標とする。	②	A	A ・「総合的な探究の時間」のさらなる支援のための学科、教科との連携。資料（書籍等）の充実も図りたい。 ・活発な図書委員会、放送委員会の活動の継承、継続のための内容の精選、見直し。 ・図書視聴覚機器の経年劣化を予想した計画的な機器の購入。
			学習センターとして、学習活動の活性化を目指し、ITCの設備の充実をはかり、授業での活用を支援する。特に探究活動のために、各工業科の総探の担当者と連携し、それぞれの要望に沿った資料を収集する。授業での図書館利用を1日2時間以上を目標とする。	③	A	
			情報センターとして、生徒、職員、保護者のニーズに対応し、情報収集、情報選択、情報の真偽の見極め能力の育成を目指す。生徒や職員へのレファレンスサービスや研修会、講習会を年1回以上行う。	③	A	
		図書委員会・放送委員会の活性化	図書委員会は読書推進活動の拠点として、本校図書館内外を問わず、積極的に活動する。また、各種研修会にも参加して他校と交流し、お互いの資質向上を目指す。	①	A	
			放送委員会は、生徒会や各常任委員会と連携しながら、校内放送活動を行う。また、放送原稿の書き方や、読み方などを学び、よりよい放送活動を目指す。	①	A	
視聴覚機器の管理と校外活動への参加	視聴覚機器の整備、点検、管理と視聴覚教材を整理、管理する。そして、利用方法を周知し、積極的、有効的な活用を促す。また、生涯学習の基盤となる場所として、地域の公共機関と連携し、校外活動も積極的に行う。また、来年度の「芸術鑑賞会」に向けて準備をする。	②	A			
校務分掌	情報システム部	校内LANの管理・運用を行う	ファイルサーバの管理・運用を適切に行う。	①	A	A ・機器の更新およびアプリケーションの速やかな更新作業。 ・サーバーの管理をする。
			各所のPCの保守・管理、校内LANの保守・管理を適切に行う。	①	A	
		校務支援システムの運用支援を行う	成績処理を正確に行うための援助をする。	①	A	
			成績処理システムの安全性の向上に努める。	①	A	
		情報発信の改善・運用を目指す	HPの充実に努め、積極的に本校からの情報発信を行う。	③	A	
各分掌・教科からの情報発信を援助する。	③		A			
ICT教育の援助を行う	生徒セグメントの環境整備に努める。	②	A			
	ICT教育の援助に努める。	②	A			
校務分掌	庶務部	PTA活動の充実	一般会員の活動意欲を向上させ、PTA活動を充実させる。	③	A	A 今年度、概ね滞りなく、実施できたと思う。来年度の各活動において、学校の実情に応じて、検討していきたい。
			研修教養委員会・広報委員会・生活指導委員会活動のさらなる充実を図る。	③	A	
			「PTA後援会合同会報」を年2回発行する。	③	A	
		PTA組織と後援会組織の連携	学校庶務・PTA役員・後援会役員の連携により、行事の企画・運営に努める。	③	A	
PTAと後援会の調整を図る。	③		A			

学年	第1学年	基礎学力の向上を図る。	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	①	A	A	・進路意識の向上 ・基本的な生活習慣と規範意識の更なる向上
		専門教科の学習の充実を図る。	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①	A		
		基本的な生活習慣の確立を図る。	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施、きめ細かく指導する。	②	A		
		自他を大切にし、豊かな心を育てる。	LHRや「総合的な探究の時間」等を利用して、他人を思いやる心の育成に努める。 清掃やHR等を通して、物を大切にすることを育てる。	②	A		
学年	第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施し、きめ細かく指導する。	②	A	A	・大学受験に向けての学習意欲の向上 ・就職・進学に向けての計画的な進路指導
		基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	①	B		
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①②	A		
		進路指導の充実を図る	実力テスト、進路ガイダンス、就業体験等の機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	①	A		
			HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	①	A		
自他を大切にし、豊かな心を育てる	LHRや学校行事等を利用して、他人を思いやる心の育成に努める。 清掃やHR等をとおして、物を大切にすることを育てる。	②	A				
学年	第3学年	進路指導の充実を図る	進路ガイダンス、面接指導、進路相談等の機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	①	A	A	・職業・企業について自主的・自発的に研究を行い、自らの意欲や適性を客観的に把握する視点を養う。 ・12月にラーケーションを消化しようと生徒の半分近くが不在のクラスが昨年同様目立っていた。その状態だと授業の進行に支障が出るので、何らかの方策が必要である。 ・工業高校の魅力を進路決定後に地域に伝える取り組みをすることで、生徒のモチベーション維持が図れるか。
			HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	①	A		
		基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。 進路目標を明確にし、進路実現に向けた学習努力の大切さを教える。	①	B		
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。 進路を見据え、進路先で役立つ技能や技術を身に付けさせる。	①	A		
			①②	A			
基本的な生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。 家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施し、きめ細かな指導を行う。	②	B				